

芸術士のインターンシップに参加させていただいた三日間で多くの学びを得ることができました。

私は芸術士派遣事業が始まった年の記念すべき第一期生でした。谷由貴芸術士との活動は今でも記憶に残っていますし、今思えば自身の原点となるものでもありました。今回は芸術士活動を提供する側に立てたことで、自分にとって芸術士という存在がよりリアルに感じられるようになりました。創造的でワクワクした環境を提供することはもちろん、子ども一人一人の気持ちや発想を大切にすること、先生方との連携等々多岐に渡り気を配らなくてはならないことを知り、責任の重さを感じました。

芸術士という存在は子どもたちの味方で先生でも保護者でもない「余白の存在」であるというお話を聞いた時、小中高生の頃の私が必要としていたのはそういった存在だったのではないかと思いました。芸術士は子どもの発想を見つけ、それを尊重し見守ってくれます。私がそういった存在を求め、もがいていた時期はもう過ぎてしまいましたが、これからの子どもたちにもきっと必要な存在だと強く感じました。また、芸術士は先生や保護者にとってもプラスの存在であると考えます。先生や保護者という立場になると、子どもたちが社会で生きていく為に伝えなければならないことが出てくるとは思います。その一方で子どもたちの可能性や感性、創造力を育むことも諦めたくありません。それは時間をかけて丁寧に育てることが必要ですが、芸術士がその役割を担うことで、先生や保護者の負担や責任と一緒に背負うことができます。育児とは集団で行うべきものなのです。なにより、自由な発想が浮かんでくる時期の子どもたちが窮屈な思いをしないでいられるのならそれ以上のことはないと思います。

実習では大好きな谷芸術士とご一緒することができ感慨もひとしおでした。改めて、この素晴らしい活動を深く知る機会を与えてくださった皆様に感謝申し上げます。

インターンシップ生 香西咲月

高松東幼稚園 2023年9月8日 芸術士インターンシップ 香西咲月



菊一組さんみんなが乗れるくらい大きな紙に、赤とオレンジ、黄、ピンク、ねずみ、黄土色のクレパスで自由にお絵描きをしていきます。どんな絵を見せてもらえるのかな？楽しみ♪
私が通っていた保育所に来てくれていた谷先生。谷先生を見つけた子どもたちが嬉しそうに先生を呼んでいるのを見て、当時の自分を思い出しました。大好きな先生が来てくれたら嬉しいよね♡



説明が終わって描き始めるとみんな早いです。大きな紙があっという間に埋まっていきますよ。



3人でなにやら相談中。聞いてみるとどうやら都市計画中だったようです。

「ここが池で一、ここが水路で一、水路にはタニシがおるっ！」

現実的な「タニシ」というワードが面白かったです。自分が描いた線から想像を膨らませたんだネ



同じ女の子でも描く子が違うとガラッと変わります。でもみんなにっこり笑顔だね♡

同じピンクのクレパスで、お隣で描いていても描いているものは全く違います。

みんなそれぞれのものを描いていて見ているのが楽しかったです。



クレパスの次はえのぐで色塗りです！筆の使い方覚えてたかなー？って確認しました。



子どもたちのパワーを強く感じた時間でした。
手助けをしたのは少しだけで、子どもたちが自分たちの世界を広げて見せてくれました。
そんな子どもたちを小さな頃遊んでくれた谷先生と一緒に眺めているのはなんだか不思議で、
自分でもそんな日が来るとは思ってもみませんでした。
熱心に創作に向き合う姿は私自身がこれからもなくしたくないものです。
とっても素敵なものを見させてもらいました。ありがとうございましたっ！